

成果報告書 2011年12月16日

集会名：「音楽的リズムを用いたトレーニング」に関する研究

申請者：健康マネジメント研究科 スポーツマネジメント専修 後期博士課程1年 鈴木 敬

日時：平成23年12月3日

会場：新潟大学駅南キャンパスときめいと

概略：日本音楽知覚認知学会 2011年秋季研究発表会にて、昨年度行った介入研究の結果を発表し、発表会での質疑応答、及びその後行われた懇親会などで、学会に参加した専門家や研究者からのアドバイスを受けた。

成果：（1）学会参加の意義

本研究は「スポーツ」と「リズム」が研究テーマであることから、健康マネジメント研究科の専門外である音楽知覚、認知に関する学会に参加し、音楽の分野におけるリズムに関する最新の知見を得ることが必要であった。また音楽に関する学会の中でも本学会は、間口が広く発表者を募集しており、過去の学会誌でリズム知覚に関する研究が多く扱われていたため、参加することとした。

（2）発表会でのディスカッション

健康マネジメント研究科修士課程で行った「身体動作トレーニングにおける音楽的リズムの影響-グラウンドホッケーにおけるスティックワークに対する効果-」について研究結果の一部を発表した。質疑応答では、特にメトロノームのリズム音の速さやリズムパターンに関して、等間隔タッピングの時間制御に関する研究などを行っている金沢工業大学山田教授から、リズム知覚の研究の第一人者であるポール・フレスの研究成果に関連づけた質問、アドバイスなどを受けた。また研究科内の発表会では指摘されなかった、結果の評価方法や介入方法についても研究デザインとしての詰め甘さを指摘された。しかしながら予想以上に「音楽的リズムを用いたトレーニング」については興味を持ってもらえ、有意義な発表となった。

（3）懇親会などでの交流

音楽の知覚認知が専門の研究者以外にも、演奏家の動作解析や音楽療法、音楽教育などが専門の方々と意見交換をした。本研究は「スポーツ科学」「音楽心理学」「音楽療法」などテーマが複数の分野に跨がっているため、専門分野の以外の研究者からの意見は非常に貴重であり参考になった。またディスカッションすることで、「スポーツ」と「音楽」における共通項の多さを痛感した。また比較的小規模の学会であったため、研究者間のつながりが作りやすく、横のつながりができたことも学会参加の大きな成果であった。

以上